

1冊当たり26円

広報香美の印刷経費は、1冊当たり、約26円(24ページの場合)。今年度の当初予算額は、360万4,000円です。

広報香美は平成22年度から、それまで表紙・裏表紙のみだったカラーページを8ページに。平成24年度からはカラーを16ページにした号が多くなりました。一般的にカラーは高いという印象がありますが、仕様を工夫して経費を抑えています。ちなみに、24ページの場合、

表紙・裏表紙のみカラーと16ページカラーを比較した場合、後者が1部あたり3円ほど高くなります。

市町村職員の広報研修では、「読まれない広報ほど税金・資源のムダづかいはない」と言われています。カラーの視覚的効果は高く、「見やすく、読まれる広報誌」を目指して、写真の多いページには、カラーページを、白黒ページには文字中心の記事を配置しています。

広告収入

広報香美には、前述のとおり、公益性のある記事を掲載していますが、広告料をいただくことにより、営利目的の記事を掲載できる有料広告欄があります。平成25年度は35万円の収入がありました。年間の印刷経費の約1割に当たります。

広報誌は永久保存

市役所の文書には、それぞれ保存期間が定められています。広報誌は、永久保存で、市の歴史を知るための重要な資料として保管されています。合併前に現存していた旧3町村の広報誌も保管されています。

写真は旧3町村の広報誌です。スタイルにも歴史があり、B4裏表の1枚物→B5判冊子→A4判冊子と形を変えていき、ページ数も、8ページから20ページへと時代と共に増えていっています。

旧土佐山田町では、広報誌とは別に、月1回お知らせ記事中心のタブロイド判裏表1枚のお知らせ広報(昭和49年8月創刊)が発行されていました。香美市になってからも、「お知らせ広報」は発行されていましたが、平成20年3月号を最後に「お知らせ広報」の内容を「広報香美」の誌面に併せて掲載するようになりました。

旧3町村広報誌の編集形式は、広報もののべが総務課。広報かほくが、職員で構成される広報委員会。広報とさやまは、昭和36年の創刊号から、当時全国的にも珍しかった民間の委員により構成される報道委員会が編集していました。



▲お知らせ広報創刊号

▲昭和36年10月の創刊号以前には、民間の山田町公聴広報委員会による山田弘報(昭和24年2月創刊)や中央公民館発行の土佐山田弘報(昭和30年8月創刊)があった。

ご存じですか 声の広報



毎月広報香美は、音声訳され、音声版の広報香美が作られています。

市内在住で、文字による情報の入手が困難な視覚障がい者の方の内、希望される方へ、無料で送付しています。

ご利用を希望される方はご連絡ください。

■問い合わせ先

福祉事務所 社会福祉班 ☎53-3117

市民の皆さんと市役所のかけ橋に

広報誌は「行政と住民を結ぶかけ橋」といわれます。

内容的には、行政からのお知らせ中心の堅い内容となりますが、イラストや写真を多用し、できるだけ親しみやすく、明るい誌面作りを心がけています。

今後も、市民の皆さんに読んでいただける広報、行動につながる広報を目指して、編集に取り組んでまいりますので、よろしく願います。(香美市広報委員会)



▲読者からの広報香美への感想(かみかみクイズ応募から)

当時の担当に聞く

広報とさやまを平成5年5月号から5年間担当しました。

長く務めている市役所の仕事の中でも、慣れないレイアウト作業など、広報の仕事は苦勞の多い仕事でした。

写真も今と違ってフィルム式だったので、あまり枚数が撮れなかつたのですが、委員さんから撮り直しの指示があり、何度も撮影に行っただけで思い出もありません。そんな中、特集記事が完成したときの達成感は何ともいえないものがありました。

ったのですが、委員さんから撮り直しの指示があり、何度も撮影に行っただけで思い出もありません。そんな中、特集記事が完成したときの達成感は何ともいえないものがありました。

総務課長 山崎泰広

